

『Canal, Foramen, Fissure, Space & Membrane
読影の手立てとなる局所解剖と画像診断』
正誤表

『Canal, Foramen, Fissure, Space & Membrane 読影の手立てとなる局所解剖と画像診断』（2018年3月30日 第1版第1刷, 2018年5月30日 第1版第2刷）におきまして誤りがございました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2018年6月22日 メジカルビュー社編集部)

	誤	正
p204 10	<p>㊦で見られた内側臍ヒダ・臍動脈索が内腸骨動脈から起始する点を確認できる。同構造は正中臍ヒダとともに臍部へ向かって上行し、点線で示すようにこれらの構造を囲むように存在しているのが臍膀胱筋膜と、この内部にあたる膀胱周囲腔、その前方に相当するのがUVSとなる。通常は確認しにくい、臍膀胱筋膜と下腹壁動脈を隔てる白線が見られる場合はUPFに相当すると考えられる。</p>	<p>㊦で見られた内側臍ヒダ・臍動脈索が内腸骨動脈から起始する点を確認できる。同構造は正中臍ヒダとともに臍部へ向かって上行し、点線で示すようにこれらの構造を囲むように存在しているのが臍膀胱筋膜と、この内部にあたる膀胱周囲腔、その前方に相当するのが膀胱前腔となる。通常は確認しにくい、臍膀胱筋膜と下腹壁動脈を隔てる白線が見られる場合は臍膀胱前筋膜に相当すると考えられる。</p>
p205	<p>臍膀胱筋膜と下腹壁動脈を隔てる白線が見られる場合はUPFに相当すると思われる。</p>	<p>臍膀胱筋膜と下腹壁動脈を隔てる白線が見られる場合は臍膀胱前筋膜に相当すると思われる。</p>

**『Canal, Foramen, Fissure, Space & Membrane
読影の手立てとなる局所解剖と画像診断』
お知らせ**

『Canal, Foramen, Fissure, Space & Membrane 読影の手立てとなる局所解剖と画像診断』（2018年3月30日 第1版第1刷）につきまして、以下の通りわかりやすく修正いたしましたものを掲載させていただきます。

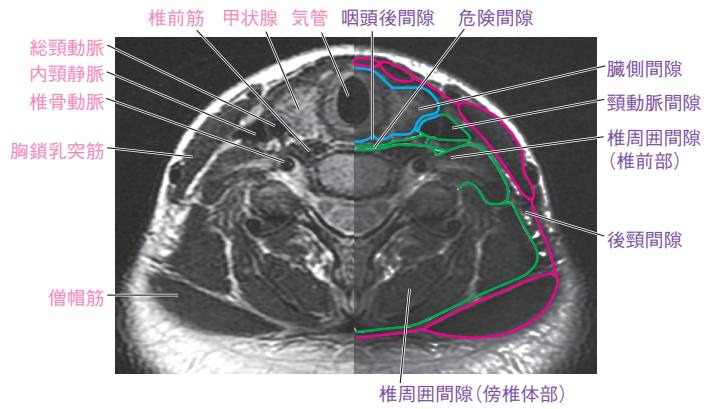
(2018年5月7日 メジカルビュー社編集部)

	旧	新
p31 症例2	左正円孔は拡大し（↑）、連続する海綿静脈洞に軟部組織腫瘍が認められる。	左正円孔は拡大し（↑）、翼口蓋窩から連続する増強効果を伴う病変が認められる。

	新
p60 図1	<p>・「耳下腺」の引き出し線位置を修正</p>
p61 図2	<p>・「胸鎖乳突筋」の引き出し線を追加</p>

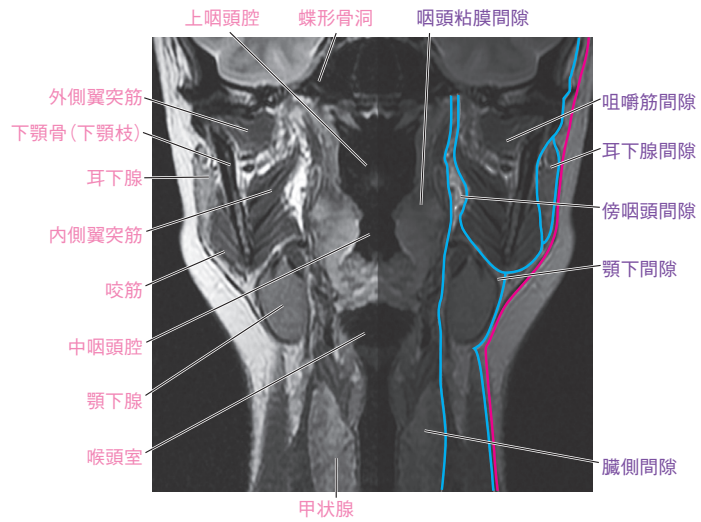
p61
図3

・椎前筋の引き出し線位置を修正



p61
図4

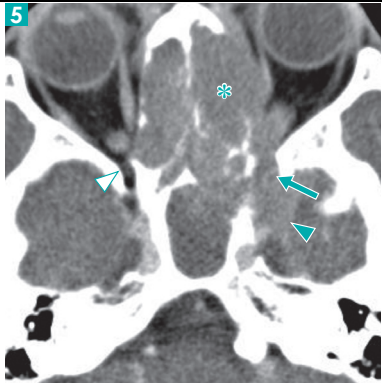
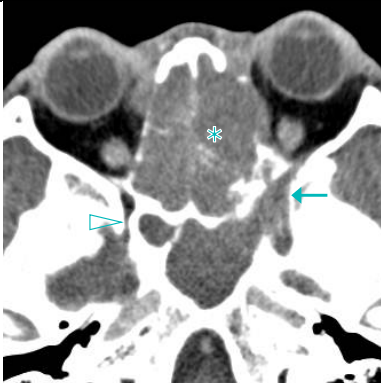
・「内側翼突筋」「外側翼突筋」の引き出し線位置を修正



『Canal, Foramen, Fissure, Space & Membrane
読影の手立てとなる局所解剖と画像診断』
正誤表

『Canal, Foramen, Fissure, Space & Membrane 読影の手立てとなる局所解剖と画像診断』（2018年3月30日 第1版第1刷）におきまして誤りがございました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2018年4月10日 メジカルビュー社編集部)

	誤	正
p31 症例2		
	海綿静脈洞 (▲) に	海綿静脈洞に
p208 図1b	内側臍ヒダ 正中臍ヒダ	正中臍ヒダ 内側臍ヒダ
p208 図2	直腸 膀胱	膀胱 直腸